

国分寺報

発行
真言宗国分寺派
大本山国分寺教学部
〒531-0064
大阪市北区国分寺
1-6-18
06-6351-5637
発行責任者 糟谷 眞教



あけまして、
おめでとうございます。

真言宗国分寺派 管長
大本山国分寺 座主
合田 和教

旧年中はありがとうございます。

寺の行事にたくさん参加いただきました。
去年のなかで気になった言葉がありました。
「許容範囲」って何だろうと思い、考えています。何人か受け入れる、受け入れられない境界線があるのかなーと単純に思っていたのですが、いやそうじゃない、とりえず受け入れてみることから始める、めっちゃくちゃ広がってきたように思えるようになると以外と心がゆったりできる様になり、自分自身で選べたりして、遊び心にも火がついて楽しんでいます。そして「許容範囲」って自分で決められて、小さくもありどこまでも広がるようです。今年一年は、これと付き合って楽しいことを発見したいと思います。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

宗務総長 糟谷眞教

先ずは、昨年六年ぶりとなる薬師如来結縁灌頂が無事成満出来ました事、国分寺檀信徒の皆様、国分寺派末寺諸大徳、檀信徒の皆様を始めすべての有縁の方々には心より深く感謝申し上げます。

さて、本年地元大阪では五五年ぶりとなる万博が開催されようと大詰めを迎えており、外国からの方々もコロナ後は驚くほど増え、街の活気も増してきたように感じます。

昨年は、弘法大師御入定一二〇〇年御遠忌法会（仮称）まで残り一〇年のカウントダウンが始まったと申し上げました。真言宗各本山では弘法大師様にまつわる様々なメディア、イベントや展示会など露出が増えてきたのを皆様もお感じになられていることと思います。真言宗国分寺派におきましても教師会を立ち上げ次世代の中心となる僧侶が集まり、時にはズーム会議もしながら議論を交わしております。

宗祖弘法大師、私も含め多くの方が「お大師さん！」と親しみを込めて呼ばせていただいておりますが、本当の

ところはどんな方だったのでしょうか。

皆様はどんな想像をされますか？私は毎日御影を見ておりますが、あまりにも伝わっていることすべてが凄く様々な著書もありますが、頭の中は「どうして、何故？」の疑問の連続で人間空海を妄想などしており知りたい欲求はどんどん増すばかり、永遠の憧れでございます。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
合掌



ご挨拶

執事長 名幸観教

明けましておめでとうございます。昨年も多くの皆様にご参拝頂きありがとうございました。

昨年下半年は結縁灌頂を執行させて頂き、全国の皆様をお迎えすることが出来ました。その中で感じた事は、人と人とのつながりです。日々、皆様は自分自身の拠点とする場所で活躍しておられますが、行事になりますと様々なイメージをお持ちの方々が集まられる中で同じ真言宗といえども各地域により伝統や文化が様々ですので、一つの事にまとめるという行動が必要になります。国分寺の各行事におきましては責任者の元、結果を求める様になつてから各教師・職員の力が強く大きくなったと感じます。一〇年前の行事では責任者が決めたことを具現化することとが求められましたが、二年前の善通寺に於ける弘法大師ご生誕法要から今の方法に変えてからというのは中身の充実さという部分が今迄とけた違いに充実しています。一月に執行致しました結縁灌頂におきましても平賀執事の元、職員・各教師の皆様のおかげで

見や考えを取り入れ二回と同じことが出来ない法要となったと思います。国分寺職員はじめ各教師の方々との交流の中で新しいことに挑戦し結果が出たことをうれしく感じます。

国分寺御廟につきましても昨年は二五〇件を超える開眼納骨法要をはじめ様々な法要を執行させて頂きました。毎年、御廟職員が経験をする中で成長し契約者の方々のお手伝いが出てくる事が頼もしく思えます。職員も一件一件状況が変わる状況で準備を大切に自分たちの出来る事を確実に執行し皆様の想いを大切に勤めております。また八月より御廟では葬儀を行えるようになり今まで以上に檀信徒・契約者の皆様にご安心頂ける施設になって行くよう努力を重ねてまいります。

本年も人と人とのつながりを大切に、参拝頂いて安心をお届けできる国分寺・国分寺御廟を目指してまいりますので皆様方の御指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

合掌

令和七年新春

執事 平賀 照教

新年明けましておめでとうございます。国分寺末寺、檀信徒の皆様方におかれましては、令和七年の新しい年を無事にお迎えされたこと、心よりお慶び申し上げます。また、昨年国分寺では、六年ぶりに薬師如来結縁灌頂が行われ、無事に終わりましたこと心よりお礼を申し上げます。本年も、国分寺発展の為、昨年、培った経験を生かして、頑張っていくので温かく見守って頂きます様、よろしくお願い申し上げます。

昨年度、私にとっては、貴重な経験をさせていただきました。昨年薬師如来結縁灌頂は一月二二日～二四日の三日間に渡り行われました。

一月二二日に、午後一時から三昧耶戒法要が執行され、結縁灌頂三昧耶戒は、灌頂儀礼に先立って厳修する法会であり、入壇の人々に大阿闍梨様から、真言密教の三昧耶戒をお授けいただけます。受者を代表して乞戒師（こっかいし）が三昧耶戒の戒法を大阿闍梨様に乞を願ひ、職衆は、仏菩薩を供養、讃嘆する法要（唄、散華、対揚）を執り行います。そして小灌頂師

（こかんじょうし）は、大阿闍梨様の御手替わりとして内庫に入り、本尊薬師如来の前で開白の作法を執り行います。三昧耶戒は発菩提心とも呼ばれ、仏と私たちと衆生とが平等一体となることを戒めとする、真言密教において極めて尊い教えになり、受者の皆様が薬師如来と御縁を結んでいただく前に大切な儀式になっております。

私自身、今回三昧耶戒法要では、乞戒師をさせていただき、管長猊下の御手替わりとして、堂内に暗幕が張られ静寂な雰囲気の中、薬師如来様と向き合いお作法させていただいたのは、とても貴重で、時がたつのがいつも以上に早く感じました。

二二日午後から結縁灌頂が行われ、三日間に渡り約四〇〇人の人たちが国分寺の薬師如来様と縁を結ばれ堂内から出てくる人たちは終始笑顔で出てこられ、印象深く残っています。本当に良かったですとお言葉をいただき、私自身救われました。また、たくさんの方々に囲まれ盛大行われ、私自身記憶に残る灌頂となりました。

最後になりましたが、今回私は薬師

如来結縁灌頂について年間に渡り準備に関わらせていただきました。私自身は結縁灌頂を受けたことがあったのですが、実践で準備からやるのがなかったたので、結縁灌頂の勉強をしたところ私が知らなかったことばかりでした。結縁灌頂をやるにあたって準備物もたくさんあり、様々な作法もあって一つ一つ覚えることが大変ではありましたが、得ることもあり、色々な人たちに助けていただき今回の法会が成り立ちました。

また、法会を一つ作る大変さを実感し、周りを見る大切さも大事だと再認識しました。今回の法会で経験したことを活かして、私自身まだまだ足りないことがあるので、一から精進していきたいと思います。

三日間に渡りたくさんの方々に法会に参加していただきありがとうございました。合掌



昨年一〇月に「こきょうくん」の石像が設置されました。参拝者の方々にも喜ばれ、トナカイの角が生えていたり、紺色のニット帽とマフラーで暖かくしていただいたり、こきょうくんもニコニコです。青龍山慈恩寺さま（寄進）、霊園墓石のヤシロさま（寄贈）、愛されキャラクターをありがとうございます。



薬師如来結縁灌頂を終えて

— 今の時代にお薬師さんと付き合う方法 —

岩 本 観 寧

一月二二日から二四日まで、国分寺では薬師如来結縁灌頂を行ないました。個人の入壇者、末寺の団体入壇者、そして代理参拝と、三つの参拝・入壇で賑わいました。お薬師さまとのお縁を結ばれた方々（入壇者）、改めておめどうございます。

入壇者は大阿闍梨（大阿様）の正面に座られ、サポート役の教授が側面で待機するという密教らしい密空間。いささか緊張した雰囲気が一月末の寒さと相まって、清々しい空気へと変わっていききました。入壇作法が密教的なので疲れが出た入壇者もいらっしやいましたが、みなさん最後まで作法を続けられました。

薬師如来は人々の病気を治す（病氣治療）仏さま。施しを受ける私たちには除病安樂の御利益があります。多くのお薬師さまは左手に宝珠や薬壺を持っています、右手の薬指の前に出しています。国分寺の薬師如来は左手に薬壺を持ち、右手を開いて天に向けています。正面から見るとハイイという具合に挨拶してくれているよう。見ている

となんだか、にこやかになってきます。わたし自身は、合田管長をはじめ何人も大阿様のサポートをいたしました。大阿様方々が読まれる真言や話される作法を間近に聴くことができ、また、作法の心構えや説法なども隣で聞くことができ、貴重な経験をさせていただきました。また、本尊の薬師如来のもとで改めて私自身の健康について考えることもできました。

具体的な場面で、入壇者は合掌を大阿様に向け、大阿様は両手の間に五鈷杵を入れます。合田管長がおっしゃったお話では「このように、毎朝、両手で薬を包んで飲む。そして、飲む前に少しだけ時間をとって深呼吸したり、お薬師さまの真言（おんころころせんだりまとうぎそわか）を唱えたり、前向きに一日を想像したりすると、さらに効果がでます」。

仏さまだけでなく宗教全般にいえることですが、現代社会ではいろんな効果を疑うことが多く、長期的にみて宗教衰退の一因となっています。とくに現世の利益・効果を露骨に示す薬師如

来は、その可否を人々から判断されがち。「お薬師さまのおかげ」ということもあれば、「薬師、効かないじゃないか!」ということも…。

しかし、合田管長のお話は、私自身の経験だけでなく、入壇者方々の表情の変化からも射ている気がいたしました。前向きに話を聴くだけで、みなさんが自然と笑顔になり、やんわりした表情で結縁されていきました。結縁灌頂が終わってから、毎朝、薬を飲



む前に少しプラス思考で思い巡らし、ゆったりとした気分の数秒間を獲得すること。この「束の間」を大切にすることで、薬の効果は実際に高まるかもしれません。

帰宅後に管長のお話を振り返ってみますと、米国の医療系サスペンス『サイド・エフェクト』（二〇一三年）を思い出しました。この映画で主演のルーニー・マラーは、精神科医（ジュード・ロウ）から新薬（実験薬）を処方される被験者を演じています。新薬を定期的に被験すると、被験者への報酬だけでなく、担当医師には大きなマージンが製薬会社から支払われるという設定です。この利権をめぐる、ライバル二人の精神科医（他方はキャサリン・ゼタ・ジョーンズ）と患者たちが複雑な関係を築いていきます。

映画によると、新薬を患者が飲むとき、できれば事前に薬の効果を知らずに飲むことが望まれます。あらかじめ効用を知ったまま薬を飲むと、新薬そのものに備わる効果が失われてしまうからです。興味深いのは、薬の効果を



知ってしまうと一時的にでも治癒される場合があるという不思議です。

この不思議を映画で医師たちは懸念しています。しかし、患者にとっては、効果の分からない新薬を飲むには抵抗があります。その匙加減（さじかげん）や駆け引きにサスペンスが生まれるわけです。

被験者があらかじめ薬の効果を知っている、薬に備わる効果がなくなるのに治癒される場合があるという不思議は、一体、どういうことでしょうか。この不思議を医学で「プラセボ効果」といい、たとえば塩水など、薬としての効き目がない偽物の薬（プラセボ）を服用しても、被験者には症状の改善や副作用の出現が見られる場合があるのです。新薬の実験でプラセボ効果が

あれば、実験は信頼できないものになります。薬がもつ効果を測定できないからです。

ですから、医師としては、患者に新薬を飲んでもらって実験するとき、事前に効果を教えたくない、つまりプラセボ効果をなくしたいわけです。

一時的にでも偽薬（プラセボ）で症状の改善がみられる場合があるならば、これを前向きに理解することもできます。偽薬と本当の薬を併用するという手です。結縁灌頂で管長がおっしゃるように、両手で薬を包んだり「束の間」を確保したりして（プラセボ効果が出る）、その後薬を飲む（投薬効果が出る）という流れ。この流れは医学において立証されていたわけです。ひよっとすれば効果が2倍になるオマケ付きかもしれません。もっとも、オマケが高じて副作用（サイド・エフェクト）が出現することもあるかもしれません。そういふときは改めて医師と相談していくことも大切です。

古今東西、さまざまな迷信がありますが、このプラセボ効果については万国共通で医学界でも認知されているものです。こう考えていって、勘の鈍い私は、ようやく「自己暗示」のことかと分かったのですが、プラセボ効果が出る原因は患者の暗示効果や期待効果だけでなく、治療環境などにも左右されます。ですから、暗示したり期待したりしながらも、他方で治療環境を整

えていくことが治癒・治療には大切です。合田管長の話はおもに短時間の「束の間」の大切さでした。そのためにも、一日に少しでもふとした時間をとって、リラックスできる生活を送ることが必要だと感じます。

私自身、昨年の春に初めてコロナに罹患し、後遺症として咳喘息を患うようになりました。これが相当に面倒。おまけに、秋には机にコツンと軽く膝を当てただけで靭帯が裂傷。内出血がないので無視していたのに、逆に血管や筋肉がクッションとならない場所を当たったという理由で靭帯を直撃して痛めたわけです。断裂にはならなかったものの、これが相当に激痛。お医師さんに尋ねたら「靭帯の損傷は骨折より痛い」と言われました…。このように昨年



の体調は踏んだり蹴ったりでした（笑）。咳喘息対策は暖かくすること。靭帯対策は足を曲げすぎず、伸ばせる時は足を伸ばしておくこと。このような薬以外の対策を基本としながらも、やはり寒さが強まってくると気道が狭くなりやすく、また立ちっぱなししていると膝や腰も痛んできます。そういう時に体調を良くするには吸入器や鎮痛剤を投入すること。そして投入前には、妻やネコたちと一緒にぐっすり眠る姿を想像しています。すると、薬に早く眠りについて快眠できます。

世間では、ガンを患っても前向きに生きれば命が伸びると言われています。もちろん、医学の発展も後押ししますが、医師にとっては患者の前向きな姿勢こそが治療の要だとよく言われます。もともと薬師如来は薬壺をもつてみなさんへ薬を供与します。この役割は現代においては医師や薬剤師が担います。でも寂しく感じる必要はございません。薬の供与をしなくても、薬師如来には別の効果があったのです。

お薬師さまを拜んで（プラセボ効果）、そのうえで薬を飲めば効果倍増（の場合がある）。薬師如来、おそろるべし。

薬師如来は国分寺の本尊で、昭和金堂（本堂）の正面奥に鎮座しています。ふだんから正面の戸を少し開けていますから、ご来寺の折はぜひ窓から覗いて「束の間」だけでも手を合わせてリラックスしてくださいませ。

土砂加持法要 北海道開催の報告

国分寺教師会 明王寺 佐藤実峰

先ず、令和六年一月一日発生の能登半島地震、また、九月の能登豪雨にて殉難された方のご冥福をお祈りしますとともに、被災された方にお見舞いを申し上げます。

9月10日、北海道札幌市の明王寺にて教師会主催の一座土砂加持法要が営まれました。

この度の能登半島地震物故者慰霊・復興祈願の趣旨にご賛同の道内外のご寺院様にご出仕頂きました。弘聖院 秦野教弘師、観照寺 佐々木大教師、極楽寺 田中全義師、密修寺 奥村勉教師、感応院 関口道薫師、昭妙寺 瀧谷昭宏師、百瀬尚璉師、観音寺 鶴岡龍祥師、鶴岡珀祥師にご出仕頂き導師を明王寺 佐藤実峰が勤めました。

明王寺にて僧侶に出仕頂いて法要をしたことがありませんでしたので、何かと不届きな点もあり、皆様には失礼いたしました。法要は僧侶一同声を合わせ、気持ちに合わせて一心に慰霊と復興をお祈りすることができました。また、明王寺の檀信徒を含め多くの方にお参りをいただきました。皆さんこのような法要を目にする機会がありませんいうでとても興味深く、また、殉難者の



慰霊・早期復興へのお祈りをささげていらっしやいました。皆さん、とても迫力のある素晴らしい法要だったとお褒め下さいました。また、ご出仕の僧侶の皆様からは、とても楽しかったとお言葉を頂きました。

法要の後、九月になり能登を豪雨を襲いました。復興が進まず一歩進んだと思つたらまた後退させられる状況で大変胸を痛めました。北海道の法要でも義援金が集まりました。少しでも役立てていただきたく思い、赤十字を通じて被災地へ送らせていただきました。この巡拝土砂加持法要は5月の国分寺会まで続き、さらに能登へお砂を撒くまでつづきます。これからも、しっかりお祈りを捧げて参ります。

ご挨拶 慈悲の御心

国分寺教師会 極楽寺 田中全義

国分寺教師会、事務局長を仰せつかつております極楽寺の田中全義と申します。

本年は今年一月に発生した能登半島地震の慰霊法要並びに早期復興を祈り、全国の国分寺派のお寺様と共に祈りを捧げて参りました。全国の国分寺派の末寺様をブロックに分け、それぞれで拝み、被災地に祈りを捧げて参りました。

まだまだ現地は復興されていない場所が多く、震災当初のまま建物等がそのまま倒れている状態であります。先日、輪島市に行かせていただく機会があり、市長様もとても辛い現状であると、お話をされておられました。

聞けば輪島市で全壊の建物が一一〇棟、もう住めない半壊の建物が五五三棟と、その被害は甚大であり、未だ復興が進まず、さらに大雨の豪雨被害と追い討ちをかけるような、胸が塞がる思いであります。数多の命が亡くなり、あるいは生きることができても家族を失い、住まいを失いと、被災地では想像を絶する光景と現実を目の当たりしました。

私としては、国分寺派寺院として、

お大師様よりご縁をいただいた僧分として、全国土砂加持法会に携わっていただきました方々、ご共感してくださった方々と一丸となり、現地で慰霊祭を行い、少しでも現地の方々が元気になるべく願っております。

お大師様は、心があるのままの姿であれば風に乗ってどこまでも自由自在に飛んでいくことができます。

ありのままとは仏の心です。その仏心とは慈悲が全てであると説いておられます。

その慈悲の仏心をもつての祈りは風に乗って亡くなった方々の元へ届くでしょうし、またどんなに離れたところにおいても、愛する方の元へ届くとお大師様はおっしゃっておられます。お大師様の御心を受け継ぎながら、自然災害で亡くなられた方々への追悼の誠をこれからも捧げ続けてまいります。

また、何よりも懸命に生きておられる被災地の方々に心を寄せていくことが我々にできることだと感じました。

皆様にとって新年が穏やかで、慈悲の心で満たされる一年になります事、ご祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。 合掌

施餓鬼会

国分寺では毎年お盆の時期に施餓鬼会を行なっています。午前中に塔婆を受け付け、午後より金堂にて法要を開式しております。

令和六年は八月一六日（金曜日）午前九時より塔婆を受け付け、午後一時より法要を開式いたしました。塔婆がズラリと並んだ本堂にて多くの方々が参拝・参加されました。先祖を振り返って此岸と彼岸の距離を短く感じる機会をもてました。

地藏盆と盆踊り

国分寺では毎年八月に地藏盆と盆踊りを行なっています。令和六年の地藏盆は八月二三日（金曜日）に行ないました。次第は次のとおりです。一六時より法要（金堂にて）、一七時より盆踊り（国分寺公園にて）。

事前に開始した境内でのお祭りも賑やかで、綿菓子やスーパール釣りなどが大盛況。子どもたちの元気に圧倒され、勢いにのまれてしまいました。熱中症の立ち眩みにも気をつけながら、盆踊りを迎えました。盆踊りは数年前に復活し、昨夏はさらに大盛況となり、子供たちが大人の部にも参加したりと、元気をもらった一日でした。

人形供養法要

年二回開催している人形供養は、毎回沢山の人形が並びます。令和六年は七月六日と一二月七日に催しました。とくに雛人形が多く、色んなお顔や着物があり何十体もの人形たちが並んで、かなり豪華です。懐かしいレトロなぬいぐるみも持込みされます。

供養当日に、ふらっと立ち寄った外国人の方々が人形を販売していると勘違いされて「How much?」と尋ねられた事もあります。

断捨離、お引越しなどで手放す予定の方は、いつでもお持込みくださいませ。



御廟の窓から

岩本 観寧

昨年国分寺御廟にたくさんの方々がいらつしやいました。当寺に強い縁を感じられる方から話を伺うと、私としても嬉しいかぎりです。北区在住の生前契約者様の名義変更により息子が様がいらつしたことがあります。お父様のご自宅は他宗ですが、国分寺御廟は宗旨や宗派を問いませんので、近所ということもあって契約されました。そして、その息子様は少し昔に近畿三十六不動尊霊場巡りで国分寺へ参拝されたそうです。昨年に合田管長が繰り返し話されていた「許容範囲」を噛みしめた次第です。



観教のひとりごと

昨年下半年、国分寺御廟の中にいて各職員の動きが変わったと感じます。職員と檀信徒や契約者の皆様とお話されている場面の横を通る度によく呼び止めて頂いてのですが、下半期は少なくなり自分たちで解決している事が多くなりました。このことに関しましては少し寂しい気持ちと安心している気持ちが半分ずつあります。

皆様からのお気持ちを聞かせて頂く中でお叱りより感謝やお礼の言葉を頂くことが増えました。もちろん皆様の御指導・御鞭撻もあり、また職員一人一人が皆様の気持ちに寄り添える事が出来ている証だと思えます。おかげさまで国分寺御廟内でのトラブルがなくなり、のんびりゆったりとした時間が御廟内に流れていると実感が出来ています。

本年もお花の手入れをはじめ法要依頼等や手続きの充実をするという目標に向かい努力してまいります。



大本山国分寺

令和七年上半年期予定表

令和六年十二月三十一日

二十三時四十五分～

一月一日 正月会（除夜の鐘）

二月一～七日 節分

（金光明最勝王経秘

宝祈願会）

三月春分の日 春彼岸会

三月三十日 団体参拝

（京都方面）

四月五日 花まつり

五月十八日 国分寺会

毎月第一土曜日 蚤の市

節分 二月一日より一週間皆様から

お申し込み頂いたお願い事を御祈願す

る法要です。御祈願後、皆様にお札を

郵送させて頂いております。（注）非公開

春彼岸会 三月春分の日に行う先祖

供養の法要です。午前九時ごろより午

後二時頃まで、卒塔婆に戒名を写し回

向を行っております。午後一時より

【総廻向】国分寺僧侶全員による廻向

が行われます。

団体参拝 春の団体参拝を三月三十

日（日）に行います。聖護院等のお参

りや平野神社の桜を見に行きます。お

誘いあわせの上ご参加くださいますよ

う宜しく願致します。

国分寺会 一年に一回、国分寺にて執

行される真言宗国分寺派の大法会です。全国より集められた御供養の卒塔婆やお願ひ事が国分寺昭和金堂内に並び、全国の国分寺派僧侶が集まり拝む姿は、圧巻の法要です。

御供所の窓から

木田知行

御供所の窓から去年から企画が起ちあがり準備して来た今年の薬師如来結縁灌頂。無事三日間の予定を終えることが出来ました。遠方からご来寺頂き灌頂を受けられた方々、行事の際いつも協力して頂く末寺の方々、携わって頂いたすべての皆様方に感謝申し上げます。誠にありがとうございます。ただ、一年とはあつという間で、正直言って去年の時点では（一年ってまだまだ先。余裕あるやん。）と思っていました。（過去に戻ってそんな自分をぶん殴りたいです。）いざ、日にちが迫ってくると灌頂が走って追いかけてくるではないですか。いやー、焦りましたねー^(笑)。まず、なにをどうするのか。あれは、これは、というふうに。右往左往、あわあわしてました。事前準備、情報整理は大事だなーと改めて思う今日この頃です。（もっと早く気づけよ）というツツコミは無しで。では、あしからず。 合掌。

法話

楽に生きる

楽に生きることとは、難しい。誰しもが思うことではありますが楽とは、どういうことを示すのでしょうか？何ん自由なく暮らすことが楽なのでしょう？そうではないと思います。楽とは、心が幸せに感じることに必要要素が仏教の教えにたくさんあります。まずは、他人と比べないこと。人と物事を比べてしまうと嫉妬、妬みが生まれ、また他人よりも優れていると思えば、逆転されたときにショックが大きいものです。そして何よりこれは自己満足でしかなく幸せに一番縁が遠いものです。お釈迦さまもこう言っておられます。「幸せとは持ち物や地位で決まるものではなく、心がきめるものです。」と。そして「幸せをたくさん所有するのではなく、多くを与えることです。」とおっしゃっています。これは、自分の周りが不幸せであれば、自分自身がそれを見て幸せにいられるでしょうか？周りの人たちが幸せであれば、自分も幸せに感じられる事をおっしゃっておられるのではないかなと思います。（楽）とは、（幸せに感じる）というこ

と。他人と比べることなく、周りの人たちと幸せを共有しながら生きることが、楽に生きることなのではないでしょうか？皆様はどう思われますでしょうか？ 合掌

霊明殿位牌壇

本堂から南側に位置する霊明殿には位牌壇が設置されています。位牌壇は、たとえば次のような方々に使っていただいております。御自宅に仏壇がなく、供養をどうすればいいか迷われている方、また、仏壇じまいを考えているが位牌は置いておきたいと考えている方です。また、三回忌までの期間限定で置いてほしいという方もいらっしゃいます。期間限定の位牌安置や永代での使用も可能です。詳細は、国分寺御供所までご連絡ください。

